にかさい

江戸川区立第二葛西小学校

令和８年 10 月 30 日発行

日頃の備え

副校長　山本　秀樹

突然ですが、想像してみてください。こんな時、どうしますか。

台所で天ぷらを揚げていたら、油に火が燃え移り、水をかけただけでは消えそうにありません。

多くの方は、「消火器で火を消す」と回答するのではないでしょうか。

では、消火器が家のどこにあるか、家族全員がすぐに答えられますか。消火器を持ってきたとして、さっと使えるでしょうか。消火の際、どのくらいの距離から、どこをめがけて放射すればよいでしょうか。これらをとっさに判断し、消火活動に移るのは思った以上に難しいことです。そのために必要なのが、日頃の点検や訓練です。

本校では、校内設備について、１ヶ月に１回点検をして、不具合がないかを確認しています。７月には教職員で非常用避難袋の研修に参加するなど、校内の設備の使い方について理解を深めました。また、８月を除く毎月、全校で避難訓練を実施しており、火災だけでなく地震、水害、不審者への対応など、児童が安全に避難できるよう指導しています。１０月の避難訓練では、秋の全国火災予防運動(１１月９日～１５日)に先駆けて、消防署の方をお呼びして、話を聞きました。話の中で、消火器の使い方や避難するときに注意することなど、子どもたちにとっても有用な内容となりました。消火器は、「ピンを抜く、ホースを向ける、レバーを握る」の動作で、火の根元をねらって放射します。また、消火の際は、自分より火が大きくなったらすぐに逃げることや避難経路を確保してから消火活動を行うことなど、具体的な行動について学ぶことができました。あいにくの雨のため、予定していた 6 年生による消火器の実演はできませんでしたが、各教室で消防署の方の話を最後まで真剣に聞いていました。

先日、私は自分の地元の防災訓練に参加しました。内容は「消火器の使い方」「ＡＥＤの使い方」等でしたが、特に興味深かったのは「地震発生時の非常用トイレの使い方」でした。実際に地震が起こった場合、排水管が損傷していることがあり、点検せずにそのまま水を流してしまうと、汚水が配管から漏れたり、逆流したりする危険があるそうです。戸建ての場合もそうですが、特に集合住宅の場合は、被害が特に大きくなるとのことでした。そのため、点検が済むまでの３～５日間分の非常用トイレの準備が全家庭で必要になります。最近では、災害が起こったときは「共助(地域の人たちで助け合って乗り越えていく)」という考えも広まってきていますが、できる限りの備えを各家庭でしておく必要性を感じました。

学校では、消火訓練や地震時の避難のように、その場で自分の命を守るために必要なことを、「お・か・し・も（おさない、かけない、しゃべらない、もどらない)」のように子どもたちに指導しています。子どもたちは毎月の訓練の積み重ねで、回を重ねるたびにスムーズになっています。この機会に、ご家庭でも家で災害が起こった場合にどうするのか、災害への備えはどうか、振り返っていただければ幸いです。

11 月は音覧会もあります。子どもたちの日頃の活動の成果が発揮できるよう、職員一同指導をしてまいります。何かとご協力いただくこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

６月より休職していた大塚教諭ですが、体調の回復に専念するため、10 月 31 日をもちまして退職することとなりました。おおぞら１組を担当する教員につきましては、引き続き代替教員を探しているところです。ご理解をどうぞよろしくお願いいたします。



10 月の避難訓練の様子

十一月の暗唱　ことわざ

１ 石橋をたたいて 渡る…用心の上にさらに用心を重ねて、たしかめること

２ さるも 木から 落ちる…名人や上手な人でも、時には失敗すること

３ 失敗は、成功のもと…失敗の原因を反省して、次に生かせば成功につながる

４ ちりも積もれば、山となる…わずかなことでも、多く集まれば大きなものになること

５ 花より団子…見た目の美しさより、実際の利益が大事

今月は、「ことわざ」です。「慣用句」は二つ以上の言葉が合わさって、元の言葉とは違う別の意味を表す言葉です。「ことわざ」は、昔から言い伝えられてきた教えや風刺、生活の知恵を表す言葉です。この違いも、この機会に教えたいと考えています。

（低学年）一～三つ　（中学年）三つ～五つ　（高学年）五つ全部